訪問者

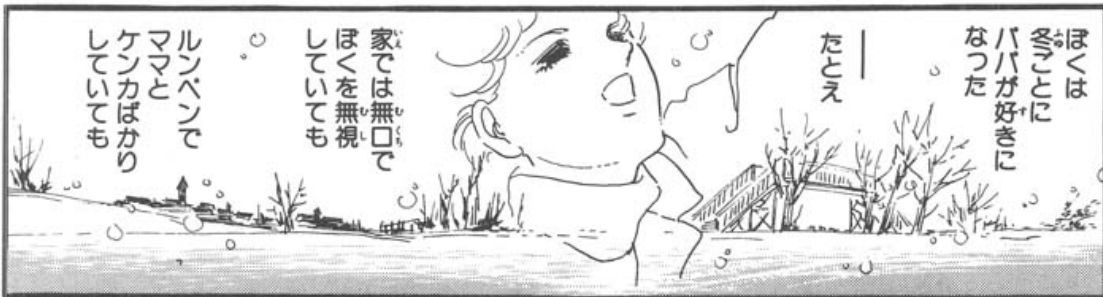
Molto sostenuto
14になるまでに
才能ののびたほうの
学校に
入れるんだってさ
ママは
ほほう
できみは…
音楽が好きかね
絵が好きかね
どっちも
ぼくね
ガリバー旅行記が好きだ
ほほう！
冒険か！
うん
ひとりでさ
それと犬ね
犬飼いたい
犬 いるだろ？
あれは
パパが
飼ってるんだ
ああ
自分のが
ほしいいん
だね？
そう
うちじゃ
みんな
自分のを
飼ってる
んだよ
ママは何を
飼ってる？
ボクだよ
で ボクだけ
なにも
飼ってないいんだ

ぼくの家の庭には
なしの大木があって
5月になると
まっ白な
花が咲く
そのころになると
結婚の記念日だと
ママは言って
白い
チョコレート
ケーキを焼く
パパは
甘いケーキは
食べない
かわりにだまって
キルシュか
ビールを飲む
パパは無口だ
ママは言う
酒飲みのルンペンと
結婚するんじゃ
なかったわ

ママはお勤めし
パパは売れない〝芸術的な〟写真ばかり撮っている
ぼくらはけっこうすてきな一家だと思う
バーン
ママ！
パパ！いる？どこ？
ねえ！
うるさいわね静かにして…
パパはまた職業安定所よ
いまねいまね
表通りで子猫が死んでるんだ
それを親猫がなめてるんだよ
食べてるんじゃないの
…どうして
育たない弱い子猫は親猫が食べてしまったりするわ
ちがうよちがうよ
子猫は死んでるんだ
親猫は知らなくて起こそうとしていっしょうけんめいなめてるんだよ
猫ぐらいなんなのよ！死んでるならしかたないでしょ？
おまえだってパパについて鳥を撃ち殺しに行くじゃない！

さ
今日は
絵画教室
でしょ!?
さぼっちゃ
だめよ!
……
ぼくは
家の中で
ときどき
行き場が
なくなるんだ
……
ド
ン
猟はルンペンの
パパの趣味だ
ぼくはとても
悪い子なんだよ
銃の音が
快感なんだ
もんね
だから
パパが銃を
かしてくれたら
なぁんだって
撃ち殺しちゃうんだ
鳥も
猫も
ウサギも
敵も
宇宙人も
宇宙人が
友好的だったら
どうするね
友だちなんかは
どうするね
……そしたら
……撃たない
……ほんというと
鳥なんか撃っちゃ
かわいそうだよね
でも……こうして
猟にくるじゃない
やっぱり
悪い子なんだ

おまえ　神さまがきた話　知ってるかい
ううん　知らない
そして　森の動物を　たくさん殺している　狩人に会った
「おまえの家は?」と　神さまは言った
「あそこです」と　狩人は答えた
「ではそこへ行こう」　裁きをおこなうために
教会にも　行かないパパが　神さまの　話?
あるとき……　雪の上に　足跡を　残して　神さまがきた
神さまが　家に行くと　家の中に　みどり児が　眠って　いた……
それで　神さまは　裁くのをやめて　きた道を　帰って　いった
ごらん……　丘の雪の上に　足跡を　さがせるかい?　オスカー
……冬ごとに……

ぼくは雪の上に
神さまの足跡を
さがした
――たいせつなものが
この世には
あるのです
――
ぼくは
冬ごとに
パパが好きに
なった
――
たとえ
家では無口で
ぼくを無視
していても
ルンペンで
ママと
ケンカばかり
していても
いつごろから
だろう?
春になっても
ママが
白いケーキを
作らなく
なったのは
それでも
ぼくは
思っていた
ぼくの一家は
うまく
やってると
――あの事件が
起こるまでは――

ぼくが9歳のクリスマスの前だった
もう一か月も前からカレンダーの小窓をひらき
きみんちもうクリスマスマジパン買った？
みんなでクリスマスを待つのだ
うちはいつも姉さんが作るんだ
ぼくはくるみ割り人形にされてた…アレレ？
ほら"魔法で"ぬかした！
2×2＝4
4×2＝8
8×2＝
……
チョキ
チョキ
チョキ
オスカー
学校ではクリスマスの数日前に父兄を招いての学芸会が開かれるのだ
おーし
もういっこ
いすてば動かすなっ
こわくなーい？
ほらーっわかんなくなっちゃった
このわっか太く切りすぎよォオスカー
たはァぼくも太いかなァと思ったんだけど…
ハハ

なん日も練習した劇は大成功!
まああなたは?
やさしいクララ
ぼくは魔法でくるみ割り人形にされていた王子だったのです
パーッ
いつもはおしゃまなとなりのニーナ
きょうはかわいくみえたりして
リンリン
キロリン
よかったァ!
わーセリフとちっちゃった
わかんないうまかったうまかった
パチパチ
まあ校長先生いつもうちのオスカーがお世話になって
ライザーさんでしたないやこれは
オスカーのおかあさまですか?お美しいですなァ
うちの子はわがままですから
どうぞこちらへ
いやお若い結婚なさってるとは思えませんな
まァ

ママ ぼく どうだった
あんなに やれるなんて ママ 鼻が 高いわ
芸術性にばかり こってましてね なかなか 売れませんの
パパ
パパ ぼく どうだった?
先に 帰るよ
商社へ お勤め ですって?
ご主人は?
え…… カメラマン ですの
パパ!
ぼく いっしょう けんめい やったのにな
何よ 今日は! ふてた態度で 先に帰って
いまさら 何を とりつくろう 気だ!
だれの先生だ めいっぱい こび売りや がって!
何を 言ってるのよ

またただ――
こんどは何が
原因かしら
いつも原因なんて
ぼくには
わからないけど……
あなたは息子のことなんて
ひとつも考えてないのよ
だれの息子だ
だれのって
言うのよ
何をしてるの
部屋にお行き！
また寝る時間を
守ってないのね！
おやすみ
なさい
どうして
言ったとおり
しないの！
ママは
毎日働いて
疲れてるのよ
どこの
家でも
パパとママは
あんなふうに
ケンカする
のだろうか
どこの
家でも
子どもを
さして
だれの子だと
言うのだろうか
――ぼくは

——パパとママの子ども
なんだろうか

ほんとうに
——

雪の上に
足跡を残して
神さまは
くるかしら
……

そして
言つて
くれる
だろうか

ぼくは
この家に
いてもいいと
……

ママ
おはよう！
……
カチ
ボッ
四年生にもなって
気がきかない
ストーブも
つけないで……
ミルクも
わかさないで飲んで……
かしなさい！
ごめん…なさい
……パパ
起こしてこようか
ママ
パパは
あの犬連れて
猟よ
さっさと
出かけたわ
……わたしたちが
もし離婚したら
おまえは
わたしとくるで
しょうね？
オスカー
そんなの…
……ぼく
ぼく学校行く
ミルクいい
行ってきます！
ガタン
ママ　今日は
会社休むわ…
だから
早く帰って
らっしゃいね

ケンカしたあと
別れるだの
出てくだの
これまでもよく
あったんだ
……
……
となりの
ニーナと
チビだ
おはよう
オスカー
なんだァ？
これ！
雪だるまよ
アハハッ
パパも
手伝ったの
見て見て
これママ
パパ わたし
これ
ぼーく！
へえ！
おもしろい
ぼくも
作ろうかな
あ
わたし
手伝ってあげる
そうだ
帰ってから
作ろう
雪だるま
パパと
ママと
犬の
シュミットと
ぼく！
はやく
仲なおり
するように
ー
サクサク
サクサク

ただいまァ!
マ……
あ
おまえなの
う…ん…
あの
ママ…
ほんとに
おまえが
生まれたとき
あの人は
これ見よがしに
あの犬を
飼いだしたんだわ
ぼく庭にいるよ
あとでいいもの
見せてあげる
からね
ママが
昼間から
お酒
飲むなんて
はじめてだ
はやく
パパ帰ってこないかなア……
キキーッ
パパ!
おかえり
パパ!
シュミット!
ねえ
パパ
手伝ってよ!

……なんだ?
雪だるま作るんだ! 作って ママに 見せようよ
あとでな
雪 あつめとくね
こい! こい! シュミット!
パッ…!
あら あーら やっと お帰りね 待ってたのよ
キィ
あなた!
いつもいつも いつもそうね! だまりこくって 無視してそれで ことがすむと 思ってるのね!
グスタフ!
カタ

わたしたち
別れたほうがいいわね
飲んでるな
これまで
子どものことを考えて
思いとどまってたけど——
オスカー！
もう始めたの？
おっきいの作るんだ！
パパが手伝ってくれるって！
ダ
ン
わっ！
きゃ
こら
ニーナ！
そら
パパだ！
わァ
キャッ
パパー！

ガチャン
ガチャン
ダン

バサザザザザザ
ぼくちょっと帰る
なんの音なの？いまの…何かこわれたの？
わかんないちょっと帰る
バタン
ククク
パパア？
ママ!?
キュンキュン
パパ？ママ！
パパ！ママ！

パパ

ママ!?

入っちゃいかん
パパ？ママは？いま……
中だ
死んだ
どうして……
うそだよ
ちがうよ
ちがうよちがうよ
うそだパパ……
おまえはおれとなんの関係もないんだ！

キューン
キューン
キュウーン
知っていたでしょう
あの子は
あなたの子じゃないわ
あなたの子じゃないわ
ワキッ

ジーーーー
グスタフ・ライザーだ
フーフ先生か？
息子が……階段から落ちた動かない
脳震とうかもしれんな動かすなすぐ行くから
それからヘラが
死んだ
なんだって!?グスタ…
ヘラガ死ンダ…
ソウダ……
知っていた
ソウダ
知っていたとも
ヘラ……
おまえの口から聞きたくなかった……
ヘラ……
だが
死ンダ……
聞きたくなかった
死ンダ…

――おれじゃない
なんなの？
ヘラが自殺したって？
ヘラが？まさか！グスタフじゃないのか
警察がきてるじゃないの？
ヘラを殺したのは
あのとき引き金を引いたのは
おれじゃない
ええわたしがフーフ医師です
グスタフから電話をもらってすぐきて
奥さんのヘラが二階で死んでおりましたので警察を呼んだのです
あれは
おれの知らない男だつた
おれじゃない
悪いのはおれじゃない…！

銃声がしたときあなたはどこにいました?
グチュー!

階下です
どこですか?
グシ
台所

銃声は午後3時前近所のあらかたの人が聞いてます

それであなたが部屋へかけ上がってみると
奥さんが倒れていた
銃はあなたのですね?
ゴホ!
そうです
猟に行って……帰ってきた直後です

発見者は亭主か
クシュン
だんなはルンペン
奥さんが働いてます
近隣の人はあまり夫婦仲はよくなかったと言ってます

フーフ医師へ電話したとき〝ヘラが死んだ〟と言ったのですね
グシ!
よく覚えていません

グシュ…
あなたが銃を電話口までもっていったのですか?
はいたぶん
たぶんとは?
動転しててよく覚えていません

どうも
ご協力
ありがとう
ございます
奥さんの遺体は
引きとって
司法解剖に
回すことに
なりますので
人間ひとりの
死ですから
いろいろ
調べることが
あるんですよ
たとえば
自殺か
事故か
第三者による
殺人か……とか
また
うかがいにくるかもしれません
お話を
わたしは
バッハマン刑事です
お見知りおきを
——息子さんは？
——病院です
ああ…
ひたいを
縫ってるんですな
麻酔が
きいて
眠ってる
とのことで
……
病院のほうは
明日なら
面会できると
言ってました
おだいじに…
オイ
病院に
回るぞ
ズー
面会
できないん
でしょ？
アホ
傷を縫った
医者に
会うんだよ
そうだ…
おまえの
食事を
忘れてたな……

……どこだろう？
病院かしら？
ママは？
家へ帰らなくちゃ！

帰らなきゃ！
帰って確かめなきゃ
何が起こったのか
ぼくがだれなのか
あら
ぼうや！オスカー・ライザーだったわね？
どこへ行くの？そっちは産婦人科よ
さ……寒いからお部屋に帰りましょうね
朝になればパパもくるわよ
ママは？
……
ぼうやのママはねえ
……
……ア
ポロ
ポロ
どうしたんですか？
……婦長さん……！

まあ　いちいち看護婦が泣いてちゃもたないわよ
……ハイ　すみません
つい…かわいそうで
でも　あの子泣きませんでしたね
婦長さんがほんとのこと教えても
まあ　そうねえまだピンとこないのよ小さいし…
……そのうちわかるわよ死んだってのがどんなことか
……やっぱり…ママは死んだらしい
じゃあずいぶん前に
死んだ子猫をなめてた親猫と
反対のことがおこつたわけだね
死んだからってなんなのよ
おまえも鳥を撃ち殺しに行くじゃないの
しかたがないでしょう！
ママは自分の死でも意見をかえないかしら
ママはもういない
いなくなつた
ぼくのような悪い子がママのために泣いたらママはおこるかしら
……

ママは
もう
いない
ママは
死んだ
――パパが
殺した――
――母親が
死んだことを
もう知ってる
のです
かわいそう
ですよ
十分気を
配りますよ
気分は
どう？
オスカー
……おはよう
じつはね
警察の人がね
あなたのお話を
少し聞きたいと
いうのよ

いいよ
それがすんだらパパがくるの？
ええくると思いますよ
やあこんにちは
刑事さんなの？
そう わしはバッハマン
ちょっとだけ話しておくれ
──きのう銃声を聞いたね？そのとき何をしてた？
──ぼく庭でとなりの子と雪だるま作ってた
で 家へ入ったの？
そうだけどあわててたから
ぼく階段から落ちたんだ
ぼく…
びっくりした
うそかしらと思ったけど…やっぱりほんとにママ 死んじゃったんだね……
……

ぼくさ
ママに
雪だるま
作って
見せてあげるって
言ってたんだよ
グス…
きみのママは
お酒を飲んでた
ようだけど
お酒が
好きなの？
うん
カゼをひくと
飲むんだ
お酒って
体があったまる
でしょ？
パパも
帰ってきて
手伝って
くれるって
って……
そうか　そう
わたしも
よく飲むよ
ママは
どんな人だった
かい？
ママはねえ
きれいで
やさしくて
いつも
明るくてね
みんなから
好かれてて
パパを
とっても
愛してた
う〜っ
う…うちの
かあさんと
同じだ
そう
そうかい
でも　パパと
ケンカなんて
すること
あったかい
ううん！
ううん！
パパも
ママのこと
とても
愛してたもの
仲がよくって
ケンカなんて
いっぺんも
したこと
なかったよ

結婚記念日になるとね
ママはまっ白な
チョコレートケーキを
毎年作るんだ
そしてね
パパは甘いものは
苦手なのに
ママが作ると
おいしそうに
食べるんだよ
それぐらい
仲いいんだよ
それに…
それに
もう
いいですか？
――パ
パパは台所の
戸口にいたもの！
ドアがバタンと
開いて――
さァあまり
興奮
しないで
ほんとだよ！
戸口にいたよ！
ニーナもチビも
見たもの！
先生いやだ！
パパ！
パパ！

よしよし…
家に帰る
わかった
わかった
まだ抜糸がすんでないからね
糸を抜いたら帰れるからね
ぼうや
いやだ!
いやだ
家に帰る
家に帰る
パパと
家に帰る
オイ…
ハア

ウラをとっていこうか
ア？
あの息子がとなりのニーナとチビも見たと言ったろ？
待てよバッハマンあんた……
あの子がまさか父親をかばって……あの子まだここのつだぜ偽証なんてできる年じゃないよ
わかってるさ
オレの気をすませたいだけだよ
ウンここでね遊んでたの
そしたらバタンとあの台所の戸が開いて
グスタフおじさんが出てきたのよ
あら！いたわよ！
オスカーがパパって呼んだでしょ？
でもぼく見たもんおじさんいなかったもん
ハア
ちがうもん！
戸がバターンと開いたけどおじさんいなかったもん

ちょっと待っておくれね……じゃそのときのおじさんの服装覚えてる?
覚えてるわ!いつもの服よ茶色の猟服に黒い長ぐつよ
こうかい
あれだと下半身は見えないが……黒い長ぐつだってどうしてわかったの?
……
ちょっとアズ立ってみてくれないか戸口に
ああ
そうよそんなふうよ出てきたとこよ
アラ…
でも……いつもの服だったから……いつもの長ぐつだと思ったのよ
メガネはかけてたろうね?
かけてたわよー
バッハマン
どうだろうかねえ
無用心だなカギをかけてないのか
バタン
キュキュ
うちの台所の二重ドアはよく一方がもう一方のドアのはずみでバンと開くんだよ
そういやうちもそうだ

奥さんの解剖報告だよ

こっから入って
ここにぬけてる

延髄か
即死だな胃の内容物は少量のミルクとクッキー多量のアルコール……血液にもだ
べろべろの少し前くらいかな…"べろ"ぐらいか

少量のクッキー…ダイエットしてたのかな
酒の飲みすぎは体重をふやすぜ
カゼには多すぎる……あのガキめ

銃には奥さんの指紋がついているここと ここだ
引き金には？
だんなが部屋に入って驚きのあまり銃をひろってるいじってるからあとはだんなの指紋ばかりだ
驚きのあまりね…

奥さんの右手中心に硝煙反応がでてる
窓をつきやぶって外に出た弾はなしの木の枝にくいこんだ

だんなの服の硝煙反応を調べても話にならんし
……朝から猟場で撃ってきた後で……
どこだね
切れた息子のひたいさ
ひたい…
よく調べたなァ
ふむ
スパスパスパ
クシュッ
もうひとつ硝煙反応がでてるんだ
うーむ猟から帰っただんなが荷物を部屋に置いてそのまま台所へおりてゆく
証言によればだんなはいましも戸口から出るところ
いれちがいに少しごきげんの奥さんが入ってきて銃をいじりだす
ふと手がすべって——
ガリ
ひたいね
パパとママは
……
ケンカひとつしなかったよ!

…いたく ないか
うん
…なぐって …悪かった な……
……ううん… ちっとも いたく ないんだ…
もう クリスマス カレンダー いらないね
刑事さんがさ 病院で パパとママのこと 聞くんだ
それで ぼく 毎年ママが 結婚記念日に 白いケーキを焼いて パパがそれをおいしく 食べるって言っちゃった
……白いケーキ って チョコレート ケーキか
ハハ
そりゃもう なん年も前の話だ 覚えてたのか
なんで そんな話 したんだい

……ママが帰ってきたら……葬式をしなきゃなァ……
……うん
パパ……
ママを愛していた？
ずっと一生愛していこうと思った？
――パパ！
何かわけがあったんだよね
おまえはおれとなんの関係もないんだ！
パパと別れたらママとくるわね？
ママ パパをもう愛してなかったの？
ぼくはどうしてかわからないけど
とても不運だったんだよね
そうだよね……

パパは
ママを撃とうなんて
きっと
思いもしなかったよね
パパって人は
けっして
そんなことが
できるはずの
人じゃないもの
——ぼくが
パパの
子どもじゃ
ないから
——だから
ママを
殺したんじゃ
ないよね……
雪の上に
足跡を残して
神さまがくる
……家の中には
子どもがいる
昔 そう
話して
くれたのは
パパだよね
ぼくが
パパの子どもで
なくても
この家にいて
いいんだよね…

まあ ヘラがねえ こんな事故で――
年末なのに ミュンヘンから わざわざ きたのよ 昔は いっしょに 遊んだわ
この家も 借家でしょ？
今後は どうするつもりなの？
本気で 仕事を 考えてね だいたい あなたは ヘラと 結婚する ときも……
よしなさいよ 姉さん 子どもの前で
あの人たち ママの 身内の人？
そう おじさん おばさん いとこ はとこ
ママの 部屋で 何してるの!?
かたみ わけよ
まあ 若いわねえ ヘラ
大学の 卒業式の 写真よ これは ルドルフ・ミュラー じゃない
だれ？ ミュラーって
昔 ヘラに プロポーズ した男よ ハンサム でしょ これ これ
わたしは 言ったのよ ミュラーのほうが いいって
キャッ
かってに ヘラのものを いじらないで ください!!

ミュラーよ
子どもがほしかった子どもがほしかったのよ
あのころ放浪癖を出して家によりつかなくなったあなたを引きとめるためにも
子どもがほしかったのよ
あなたは疑いながら尋ねもせず
そのやさしさでわたしを苦しめ続けたんだわ
ミュラーの子よ
ミュラーとはそれきり会ってないわ
どうせ信じやしないでしょう
そんなことを聞きたくなかったおまえの口から!
愛なんてうそ何が愛なの?
わたしたちお互いに裏切り者同士だったんじゃないの!?

パパ 何してるの?
古い フイルムの 整理だよ……
これ ぼく?
そうだ…… おまえが 生まれたころは ずいぶん 写した
へえ ほんとの 親子みたいに 見えるね
あたりまえだ!
こいつは おれの子だ
おれの 息子だ
そうだ おれは いまだって 信じてる
おまえは やさしかった
おれを 愛してくれていた
だれの せいでも ないんだ……
何もかも 少しだけ ずれた 歯車の せいなんだ
だから…… 許してくれ おれのことも……

ママの
おばさんや
いとこたちが
いれかわり
遠方から
訪れては
去ってゆき
あわただしく
年の瀬も過ぎ
……
新年が
訪れた
ぼくは
ひたいの糸を
抜いたけど
カゼを
理由に
学校を
休んだ
毎朝
ニーナが
登校する
ぼくは
手をふる
このごろ
ニーナは
かわいいんだ
パパは
山のような
写真の
整理を
始めた
ぼくは
だれにも
会いたくない
パパと
シュミットと
あたたかい
家の中に
いるほうが
いい

ぼくが出る
カチャ
やあ
こんにちは
オスカー
こんにちは
バッハマン刑事
お父さん
いるかね?
なんの話だ
ろう
ウソがばれて
パパを
つかまえに
きたんだろうか

おや…？
何か……
パパ
刑事さんだよ
あ
いや
つい
近くまで
きたもんで…
おお…いいにおい
ですなァ

おひるの
うずら焼きですよ
好きですか？
すばらしい！
うちの奥さんは
苦手で作って
くれないんだ
大好物なんです

絶品だ！
あんたは料理の
天才ですな！
これは
趣味ですよ
趣味ばかりで
本職のほうは
さえなくてね

いや〜
さすがに
きみは両親の
多彩な才能を
うけついで
いるんだね
絵の先生も
バイオリンの
先生も
ほめていたよ

もう
やめたんだ
ぼくのことを
調査したな

なぜ？
おしいよ！
わたしが
若いころは
貧しくて
それに
戦争で
音楽が
好きだったけど
習えなかったよ

貧しくて
戦争に行っても
音楽が好きで
やめなかった人は
いっぱいいるよ
バイオリンの
先生も
そうだよ
それに
先生のときは
二回も戦争が
あったんだよ

それからパパはね
お金があって
戦争はおわってて
大学に行って
将来を
嘱望されて
首席で
卒業して
いい会社に
勤めたけど
いまは
ルンペンだ
ものね

できなかったことを
悔やむのは
女を
くどきそこねた
言いわけのような
もんだよ
おばさんたちが
言ってたんだ
だまんなさい
どこで
そんなことを
聞いてきた!
……
……
……
カチャ
カチャ
カチャ
あ…そうだ
グスタフさんは
プロの
カメラマンだ
そうで!
いつか
わたしなぞを
写していただきたい
もんですが
わたしは
風景が
専門なんです
人間は撮りません
……
家族のほかにはね
──ママ…!

どうも
ごちそうさま
いやはや
こんどはわたしの
おごりで
いつか飲みに
行きましょう
二度とくるな
オスカー
あんたは
わしが
気にいらんか？
またきちゃ
いかんかね？
たとえあなたが
裁きをおこなえる
神さまでも
子どものいる家に
きては
いけないんだよ
は？
…

こら
シュミット
いやがっちゃ
だめだよ
……オスカー
おひるに
刑事さんに
話してた
神さまの
話ってのは
なんだね？
あれは
ずいぶん前に
パパがしてくれた
話だよ
ぼくは悪い子
だったけど……
どんな悪い子でも
家にいて
いいんだって
子どものいる家は
裁かれないいんだ
パパは雪の上に
神さまの足跡が
見えるかいって
聞いたんだ
だからぼくは
毎年
雪の上に
さがして
るんだよ

いがいと早く
招きに応じていただいてありがたい
新しい事実でも見つかりましたか
ハハー　これはこれはです
いや　いや　いや
わたしは推理小説は大きらいでしてね
作者は犯人を知ってるくせに最後までかくしているから
ハハハ　それは　それは
……あなたは
息子さんがあなたの子どもでないことはごぞんじでしたか？
わたしの子でないのなら！
だれの子だというんです！
さァ　まだそこまではね

息子さんは
奥さんと同じ
血液型ですしね
ただ
十一年前に
お二人は
エッセンの病院に
検査に行かれて
ますすね
その結果
お二人の間に
子どもが生まれる可能性が
きわめて少ないことが判明した

妻は人工受精
すると言ってました！
病院は
だんなの大反対で
奥さんは手続きも
しなかったと
言ってます
その後
奥さんは

市の
カウンセラーに
だんなの
放浪癖に
ついて……
ガチャ

あんたは
ひとの家の
うち幕を
のぞきこみ

こづき回して
楽しんでるん
ですか！
とんでも
ない……
わたしは
自他共に
認める
善良な
市民です
それなら
口を
つぐんだら
どうです！

ほんとに
こんなことは
酒が入らないと
言えませんよ

いい
息子さんだ！
いい
息子さんです
だから

グスタフ・ライザーさん
自首してほしいんです

なんでです！

なんでって
ズゥズゥ
あんたが奥さんを殺したからですよ

証拠は？
不起訴
不十分
わたしはね
オスカーがかわいそうだ
あんたが自首して罪をつぐなうのが一番いいんです
あの子は
あんたの重荷を半分肩がわりしてるんですよ

ごらんよ シュミット
ママ きれいだろう？
パパが撮ったんだよ……
とても愛してたんだよね
ねえ シュミット……
……どうして ママを殺しちゃったのかなあ……
……まだ起きてたのか
あ おかえり アルバム見てたんだ
パパ いろんなとこに行ったんだね
ああ… こいつはシュターデだ…
どこ？
パパが生まれたとこだよ
ここで育ったの？ この海岸で？
……寒い冬には浅瀬や中州が凍ってな……
同級生が氷の割れ目に落ちて死んだことがあったな
あのあとだったな 戦争が始まったのは……
パパ 戦争に行った？
パパのパパが行って戦死した
…いまはパパのおじさんが住んでいる
今年も凍ってるな…

――海を見に
出かけてみるか
あした――
はじめて
だろう?
ほんと!?
すごいや!
そう ぼく
海は
はじめてだよ!
凍った
アウトバーンを
つっ走れ
海を見に
行くんだ!
ハンブルクの
街に着いたら
おじさんに
電話しよう
なん時になるか
わからない
しな
おどか
すんだね
?
ぼく
会うの
はじめてだ
ルール地方を
出て
小旅行だ
おべんとう
もって
海を見に!
――
だけど
ぼくたちは
街に
たどりつけ
なかった

堤防が切れていて道は全面工事中だったのだ

あれはなに？ パパ
海岸の防風用のかきねだよ
しようがない……迂回して遠回りするか
うん

〝遠回り〟はすてきなことばだ
だって旅行が長くなる
——でも それから

——パパは急に凍った海を見に行く興味を失ってしまったようだった
パパは一度きったハンドルをもどさなかったのだ

そして ぼくたちは長い遠回りを続けることになった——
ママァ オスカーんちこのごろだれも見ないけど……
そう？ 旅行にでも行ったんじゃないの？

とにかく家の中を見せてくれ家主さん
心配なんで
でも何も起こってませんぜ
死体でもさがしたいんですか？
……いや
あたしも困ってんだ……家賃は未払いだし
水道も電気もこれじゃあ止めないと
グスタフ・ライザーの親せきにはしから電話してみたんだがきてない
「放浪癖のある男だから」と冷淡なんだよ
なぜ市民が小旅行に出かけちゃいかんのかね？
うう！
なんてこった！
なんてこった！わしはなんてまぬけだ！
追いつめなきゃよかった
たのむ……たのむたのむから……
自殺なぞせんでくれ！
ママ…ァ
オスカーんち貸家の札が出てるわよ……
まァそう？いつのまに引っ越したのかしらね
クスン…あたしさよならも言ってないのに……
そらそら…ニーナ……

――パパ！
なしの花だね
――ああ
うちのなしの花も咲いてるね
そうだな……
行こうか…
うん！
一月の末に家を出てから
ぼくたちは結局わき道にそれたまま
その日その日の気ままな旅人になってしまった

ブルルルル
ブルルルル
よいしょっ!
動くぞっ!
パパ しっかり!
あいや……
車どうするの?
動かない車は車じゃないよ

なんぎでしたねえ
よーござんしたよ
近隣で宿は
うちだけでね
一時間近く
歩いたァなんて
まァまァ
クシュン！
寒くないか
少し寒い
……
パパがぼくを
ひざに抱いて
くれるなんて
生まれて
はじめてじゃ
ないだろうか
こうやってると
ぼくは
だんだん
悪い子じゃ
なくなって
いくような
気がする
どんどん
いい子に
なっていける

いい天気だねえお客さん
ああ　終点まで
あらあらありがとう
いい息子さんねえ
ぼくはどんどんいい子になつていける
これは長い夏休みだ
ぼくはなんでもやれそうな気分になつてくる
何においたてられることもない
無口なパパとシュミットとぼく――
いつもぼくたちはいつしよだ

パパ！
パパ？
すみません――パパはどこかへ行くって言ってました？
え？いないのかね？買い物じゃないのかね？
変だなあだまって出かけるなんて……
はじめてだ
いやだよおまいさん捨て子じゃないの
まさか……？
おひる代ももたないぼくらをおいて…？
ぐぅ
おなかすいたねシュミット……
ホテル代だってまだだし…
あのパパのカメラだけないし……
たぶんどっかで撮影に夢中になってるんだ……
金目のものだけもって出たわけだね
――もう夜中だよ
帰ってくるよ！シュミットの飼い主なんだから！シュミットをおいてくはずないもの！
――ぼくはともかく――
そうだよ
明日はきっと帰ってくる

そうだよ……
きっと今日中に帰ってくるよ！
おひるまで待っててよ！
昨日もそれでほだされた
あとは警察のほうへでも行ってくれ
荷物はホテル代にもらうからな
待っててくれればホテル代も払えるよ
払うよ
キイッ
パ……パ
パパ！
パパ！
パパ！ びっくりした どうしたのさ どこに行ってたの？
…ふらっと出ていきたくなる…悪いくせがあってな…
……すまんな心配かけて…
ううん いいんだ……
きっと帰ってくるって わかってたもん

9月も末になるとぶどうの収穫を祝うワイン祭りがあちこちで開かれる
陽気でおおにぎわいだ
さァさいくらでもおかわりしとくれ！泉のようにあふれてるんだ
これを味わわない手はないよ！
ガタ
ガチャン
あ
ごめんパパ……
ケガしなかったか？
いいよ服はすぐかわく
すぐかわくゥ
ヒック
え〜これを見ろ！これを
どうしてくれるんだ許さねえぞォ
あ……

ウ～～
ギクッ
これを…
こら シュミット
ごめんね パパ
ごめん なさい
……
オスカー こんなことを 気にしなくて いいんだよ
なんとも 申しわけない おわびに 一杯おごり ますよ
それで 許して くださいよ
まァいいよ ま 祭りだ いいよ
おまえが 悪いと思ってるのは 十分わかって るから
……
どうして パパは わかるんだろう
ぼくがそのとき いちばん心に 言ってほしいことばを 言ってくれるんだろう
―ぼくが いい子に なって 言ってる んじゃ ないんだ
ぼくは 変わらない
ただ パパが ぼくの中から 引き出して くれるんだ―
そうなんだ
あ これ ブラームスだよ！
……
ヘラが 好きだったな

……
ママも
いっしょに
これれば
よかったのに
そして　こんな
毎日なら
きっとだれもが
にこにこして
ケンカなんて
せずに
暮らせるのに……
やさしく
して
とがめ
ないで
わかって
くれて
……
ママが
生きてれば
よかった
のに……
……ある夜半
目を覚ますと
すそに
パパが
すわっていた
……
……!
眠ってる
ふりをした

パパの影は黒く
重つくるしく見えた
息すらしてないように
見えた
――なんて言えば
いいんだろう？
――パパごめん
ぼくもう
二度と
あれ
ブラームスだよって
言わない――
ララ
ララ
ラ
ララ
ラ
今日は
帰りが
おそいわねぇ
きみのパパ
台所にきて
夕食いかが？
ワンちゃんも
ありがとう
冬のはじめ
――
パパは再び
失そうした

パパはこの宿に
はじめは
一日おきに
帰ってきて
いたのだが
ついに……
おい
どうするね？
あの子の
父親……だよ
エンゲリーカ
でもあの子は
きっと
帰ってくるって
言ってるし……
そういってもう
一週間だよ……
そりゃ宿はいま
シーズンオフで
ひまだけどねえ…
おじいちゃん
子どもなのに
おい出すのは
かわいそうよ
……
なあに？
エンゲリーカ
手伝って
クリスマス用の
アニスシード入りの
クッキーを
作るのよ
いいな！
うちのママも
昔はよく
焼いていたよ
昔って？
ああ
あの…
去年の
いまごろ
神さまが用意した
天国の特等席へ
行っちゃった
……
エンゲリーカも
ぼくと同じ
年ごろに
ママを
なくしたんだと
言った

!!
トテテチテタ
リンリン
リンリン
ティラララ
リラララララ

ハハハハ
パチパチ
うまい
うまい
アハッ
学芸会でやったんだ

人のいい
宿の主人のもとで

そんなふうに過ぎて

このまま
あなたのパパが
帰らなかったら
どうする？

どうしようかなあ

おねえさんなんて
ほしくない？

エンゲリーカなら
考えて
みてもいいや

ホント？

グスタフさんが帰ってみえたよ
オスカー
エンゲリーカ！
パパ!?
まァ！
ぼくごめんね！
弟になれなくて
パパァ！
おかえり！
……
パパ……
ああ
どうも…お世話でした
長いこと……
いや
いや
仲よくやっとったよ
パパどうしたの？
左目…赤いよ
そうか…？
ちょっといたむんだ……
あっつ
あぶない
！

…ずいぶん ほっといて 悪かったな……

いいんだ ぼくたち エンゲリーカと とても仲よく なったんだよ

Pam Pam

ALCARVE

何か ほしいかい？

お金 あるの？

じゃあねえ… 双眼鏡！

よく見える やつがいいな

ちょいと ぼうや……

あの人はほんとに きみのお父さんかい？ 人さらいじゃ ないだろうね？ えらく きたないが ……

パパだよ

何を がんばってるんだ… おれの服を…

ほっといてよ！

これが すんだら シュミットも 洗うから ね！

ちょいと　お客さん……
あたしゃ ひとのことは あまり口出し したかないけど 聞くとお子さんは 学校にも 行ってないって？
ハア…

そりゃあ おせっかいかも しれないけど
あんた 父親なら しっかり しなきゃ
あの子毎日 つくろいものに せんたくばかり 将来は どうすんですよ
……

おかえり 目医者に 行ってきた？ どうだった？
ああ…その… 栄養不足 らしいよ……

きっと ビタミンの不足だよ レバーが栄養があるよ

なァ…… オスカー
学校に 行きたいか ……？
学校？
ぼく 勉強 あんまり 好きじゃない

しかし……いずれは 行かなきゃなァ 勉強せんと……

こうやって 旅行してんのも 勉強じゃないの
地理と社会のさ ぼく行ったとこ全部 覚えてるよ
ルールから出て ハンブルクだろ 南へ下って リューネブルクだろ ツェレ　ハメルン カッセル　ジーゲン コブレンツ マンハイム……

ね？
ぼく
いまのままが
いいや
ぼく
いまのままが
ほんとうに
いいんだ
ぼく
こうやって
パパの役に
立てるし
いまにもっと
いろんなことが
できるように
なるよ
パパがときどき
いなくなっても
シュミットと
待ってることも
できるし
それに……
それに……
ぼく
パパといると
悪い子じゃ
なくなるんだ！
悪い子じゃ
なくなるって
……
クス
そうだよ
パパがぼくを
信じていて
くれるんだもの
……
……凍った海を見には
まだ……行ってないなあ……
うん
行ってみるか……

遠くまで
凍つた海の風景は
ただ
悲しいばかり
小屋には
だれかが
住んでいる
そこにも
だれかが
訪れる
彼は
迎え入れる
……
パーパ！
ぼくは呼ぶ
グスタフが
思い出の中に
帰つてしまつて
ぼくを
忘れない
ように
パーパ！

おい ぼうず
ハンブルクは
どっちだい
あっちだよ
いい双眼鏡だな
こいつで
見えるのか
どれ
かしてみ
もういいだろ
おい チビ
どうして
こんなの
もってんだ
え
くすねて
きたんだろ
ちがうよ!
かえせよ!
こいつは
もらっ
とく
なに
すんだ
そらっ
かえせ…!

何をしてるんだーっ
いけっ
うわっ
キャン
シュミット！
双眼鏡かえせ
かえしてやら！
ガチャ！！
待てーっ
おまえらっ

このドアホウ！くそうどもっ！
ブーン
バタン

すごいな パパ

だいじょうぶか？
うん！

シュミットがきてくれたからね
だけど双眼鏡が…
ああ……

あんなやつらはろくな人間にならん！弱い者とみれば目をつけてたかる

何を笑ってるんだ？

すごいな パパ

すごいなぁ パパ

北海の風に吹かれてぼくとパパは仲よくカゼをひいた
ぼくはたいしたことはなかったけど
パパは左目を赤くしてそこからはたえず涙が流れていた
ぐすゅ
ちちち……
ぼく見える？
見えるも見えないも目なんか開けていられるもんか
お医者の話では神経疲労だそうだ
そういうのは心のプレッシャーをとりのぞけば治るんだって……
クーーン
パパ シュミットがけさから元気ないよ
パパたちのカゼがうつったかな
人間のカゼもうつるの
知らんがたぶんな
この街の獣医はどこかな…

ああ
カゼのようですな
注射をしときますよ
これはいくつですか?
11年とちょっとです
じゃあ……十分気をつけてやってください
年のせいで体力がひどく弱っているようですから
はい
シュミットはぼくと同じ年なの?
おまえが生まれたとき買ったんだよ
ヘラがおまえばかりかまうもんでな……
ヘラはいやな顔をしたなあ……
あてつけだと言って…
パパ!シュミットが薬をはいちゃったよ
シュミット?
えらくよだれが出てるな
こじらせたのかもしれん
……おい

重病の犬だって？
こまるよ！
うちだって犬を
飼ってるんだ
うつったら
どうして
くれるんだ
車を
呼んでくれ
医者へ連れていく
パパ
いっしょに
出てってもらうよ
うちはね
病院じゃないんだ
なんだと
おれたちは
客だぞ！
家族ぐるみ
病気の
客なぞ
めいわくだよ！
人でなし！
病気の
つらさを
思い知れ
ゴオオ
このやろう
出てけーっ
パパ
ー！
ライザーさん
言いづらいが
伝染性の病気を
併発しています
重いんですか？
シュミット……
クーン
……今晩もてば
いいんですが

パパは今晩シュミットについているから
おまえ駅前でホテルを探してそこにいなさい
どうしてぼくだけ？
熱が七度二分から下がってないじゃないか
このうえおまえのカゼの心配までパパにさせようってのか？
パパだって七度三分を上下してるじゃないか
シュミットはパパの犬だからパパが心配する権利がある！
パパのカゼは……
ホテルへ行けーっ
HOTE
いやな一夜だつた
そのときがシュミットを見た最後になつた
……そう言えばぼくはママの最期も見なかつた
さっき
……死んだよ

なにしろ目が痛くて痛くて涙が止まらないんだ
医者のやろうがカンちがいしてえらく同情しやがって
シュミットは？どうしたの？

病院の裏手に墓地があったんで埋めてもらった……

……ほんとうに…？
……シュミットは……
……苦しがってた？

苦しがってたよ
……聞くな
思い出したくない……

あっけない……
あいつ……
かわいそうにな

……

おふろのあとのドライヤーが好きだつたな……

どきん
——もしこんどパパが出てつたら……
もう帰つてはこないかも……しれない
だつて——だつてもう

ターー……
シクシクシクシクン
シュミットがいないんだもの……!
……シュミットかと思つた
もういないのに
ワンワンワンワンワン
ある夜
やはりパパの影があつた
小さく細かつた
以前見たときよりもつと もつと重たげに
パパの左目はほとんど見えなくなつていた……
パパお祈りをさせて
神さまはこないでほしい
パパを苦しめないでください
ママパパを許してください
おねがいです

おねがいです

ひとりに なり たいんだ ……
とにかく …… おれは だめな んだよ …… とにかく …… おれはもう できない んだよ
もう おまえを 連れてぃけ ないいんだよ ……
……
──それでな
カールスルーエの 少し先に パパの知りあいが やってる 学校が あるんだ……
そこは 寮があってな…
おまえと 同じ年ごろの子が そこで寝起きして 勉強したり 遊んだり してるんだ
──学校？
そう──そう
どれぐらい？

——南米に
行こうと思うんだ……目が
見えなくなるまえに
——夢をもつのはいいよね

あそこは……
明るくて
熱くて
広くて……
古い
ラテンの血が
眠っている
大陸なんだ
どのみち
パパの人生だ
だれにも
肩がわりは
できないさ

どれくらい?

一年……
くらいかな

二年……かな……
それか
もう少しか
……
……だから

おまえは
学校に
……
——うん…パパ
——わかったよ

ぼく
そろそろ
勉強したいし
学校は…
いいな
だから
ぼくそこで
その学校で
待って……

ちゃんと
勉強して…
カタカタカ

カタカタカタカタ

……
……
カタ…

ガタッ
シュミットのつぎにはぼくを捨てるんだ!
オスカー!
オスカー!
オスカー!!

待ち……
待ちなさい
はあはあ
待ちなさい！

じゃあ
ママをかえせ！
パパには
いらない
いらない
だれも！
ママを
かえせ！
……
だま……
ママを！
だまれ
だまれ
……
かえせ！
だまって
くれ…！

ゴホ
ゴホ！
ゴホ！
ゴホ！
……そんな目で見るな……！
ヘラと同じような目を…して
おれをせめるな……！
おれはだめな男なんだから…！
見るな……

……パパ
━パパにとって
雪の上を
歩いてくる
神さまは
それは
ぼくの顔をしていたの?
あなたを
裁きに
訪れた人は
ぼくなの?
あなたには
じゃあ
ぼくの
なりたかったものが
わからなかったん
だね
ぼくは……そう
なれなかったんだね

たぶん5月は……
一年中でいちばんすてきな季節だ
――どっちがいいのかな暗く寒い冬にいやなことをすませるのと
明るいいい月に悲しいことをむかえるのと
どっちがいいのかな……
あの家のなしの花もいまは満開だろうね
――なんていう学校？
……なんていったかな

この街の高等学校ならシュロッターベッツだね
校長先生はミュラーっていうんだ
ああそうそうどうも
この一本道さ
……！ミュラー？
ぼく聞いちゃいけないかな
パパ——ミュラーってだれ？
パパの大学時代の友人？
ママに昔プロポーズした人？
——おばさんたちが言ってた……
パパ帰ってくるよね
ぼくはパパの子だよね
……何か言ったか？
なんでもない……

カチャ
……やあ
……おまえか
ルドルフ…
これが
息子だよ
……
ミュラー校長だ
あいさつおし
オスカー
待ってたよ！
驚いたよ！
いきなり
電話を
くれるものだ
から…
——なん年ぶり——

……
ようこそ……よくきた……よく…よくきたね…
あいさつしろ
……
こんにちは！
ギュッ
ヘラによくにてるだろう？
さあ
入ってくれ
時間がないんだ後はよろしくたのむよ

校長先生によくたのんでおいたからな
グスタフ！
いい学校だよく勉強しろよ
そりゃ急じゃないかひさしぶりに会ったんだから……
年寄りみたいに昔の思い出話でもしようってのか？よしてくれ
パパぼく
──パパ
南米の色切手をはった絵ハガキがほしいな
うそつき
ああ送るよ
うそつき
じゃあな元気でな
パパ

パパ
ぼくほんとに
なん年も待っててて
いいね？
パパほんとに
帰ってくる？
帰ってくるね？
ギュッ
──パパ！
グスターーフ!!

さあ…オスカー
長旅だったのだろう?
つかれたかい?
部屋へ行って
休むかい?
……
——ううん!
授業うけたいな
ぼく学校一年ぶりなんだ
——パパが言ってたからね
よく勉強しろって——
部屋に行っても
ひとりじゃつまんないし
そうか……じゃあ…
ああ…ユリスモール
オスカー・ライザー
転入生だよ
きみのクラスだ
案内してくれたまえ
はい
校長先生
放課後またおいで
いろいろ話そう
ひとりできたの?
いやおやじとさ……!
南米から
へえ…?
すごいね

うーそだ
ルールからさ
南米へ
行ったのは
ぼくの
おやじだよ
キッ
それは
遠くだねえ
オスカー?
——ぼくは
いつも——
たいせつなものに
なりたかつた
だいじょうぶだよ…
オスカー
彼の
家の中に住む
許される子どもに
なりたかつた
ねえ

プチフラワー　1980年春の号に掲載